

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 12 月 26 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502447		
法人名	佐々木産業有限会社		
事業所名	グループホーム あげぼのあゆみホーム		
所在地	〒721-0952 広島県福山市曙町五丁目5番25号 (電話) 084-954-5704		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3471502447-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年12月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>庭には野菜やお花を作ることができ、また散歩して頂けるスペースも確保することで、閉鎖的にならないよう、ゆったりと生活して頂けるよう工夫しています。 入居されている方々の嫌がることは無理強いせず、出来ることは見守り、難しいことはお手伝いすることで、より快適に安楽に生活していただけるよう支援しています。 2ユニット間の交流が増え、入居されている方々の思いや状況に合わせた対応がしやすくなった。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>住宅街の中にある平屋建て各ユニットにウッドデッキがあり、北欧風の造りになっている。事業所は、12月で開設12年を迎える。法人代表者は地域の役員等をされており、「安心して暮らせるホームづくりで地域社会に貢献」を目的に掲げ、地域との協力関係は出来ている。職員の離職率は低く開所以来の職員が多数在籍し、ユニット配置についても10年前から移動を無くし利用者と職員が家庭的な雰囲気の中で穏やかな生活が出来る環境を提供している。医療面では提携医が隔週1回訪問し24時間対応できるシステムが出来ており、利用者・家族のにとって安心である。管理者、職員は、日々生活している中で徐々に身体機能が衰えていく利用者に対応するため、何をすべきかを絶えず意識し、ユニット間交流、菜園づくりなど個々の利用者に合わせて支援をしている。今後は家族の理解を得ながら、本人本位の個別対応、外出支援の充実を目標にされている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	以前からある基本理念とは別に、職員全員で話し合ってきた2ヶ条を毎日唱和して現場に入っている。	法人理念をもとに、職員全員で決めた事業所理念目標2ヶ条を定め、毎朝唱和し理念の共有できるようにしている。	職員で2か条の理念目標は定めているが、より法人理念を理解して職員が日々のケアを実践するために職員が理念を実現するための具体的な目標を持つような取り組みを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事にも出来るだけ参加している。町内一斉清掃や盆踊り、文化祭等に参画させていただいている。防災訓練にも共同参加して頂いている。	町内会にも加入され町内会の行事にも参加されている。町内の一斉清掃は職員のみであるが盆踊り、文化祭には利用者も含めて参加されている。	町内行事には出来るだけ参加されているが、より地域の一員として関係を深めて行く為に、町内行事の手伝いや地域に認知症・介護などの相談窓口的役割で地域貢献ができる取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議に町内の役員さんや民生委員さんたちに出席して頂き、認知症の症状や取り巻く現状等についてご説明している。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	取り組みや検討している事案などを議題にあげ、頂いた貴重なご意見を職員会議で話し合い、問題の改善につなげたり、新たな取り組みを模索したりしている。	運営推進会議には、毎回、市の職員、地域包括支援センター、町内会役員、民生委員、家族が出席され、ヒヤリハット事故報告、施設の行事報告など毎回テーマを決めて開催され、出席者の多彩な意見を聞き取り、サービスの向上に活かしている。又、出席される家族が固定しないよう交代制で多くの家族から意見を聞きとれる工夫がされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	年6回の推進会議には毎回2名の参加を頂いている。ホームの実情をお話ししたり、相談をし、意見をいただいている。	市の職員が毎回の運営推進会議に出席してしており、若年性認知症利用者への対応の相談や運営等に関してアドバイスを頂ける協力関係が出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>入居者の方一人一人の普段の行動をよく理解し、危険な行為が予測される時は鈴やチャイム、徘徊センサーマット等で素早く対応出来る様に取り組んでいる。</p>	<p>職員は、日常の生活の中で利用者の予測できる出来る行動の把握に努めている。居室内、施設の死角になる場所はセンサーマット等を活用し対応し、毎月のユニット会議では身体拘束しないケアについて注意喚起をしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>スタッフが交代で研修に参加して、それをホーム内で勉強会を開き、全員に徹底していくよう努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員は書物やセミナー等で学ぶように心がけてはいるが、入居者の家族の方たちは個々の事情で活用が難しい面もある。しっかり話し合っていきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居される時に丁寧に説明して解って頂けるようにしているが、その後も改定時や入居者の状態の変化がある時など、折に触れて話し合うように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>推進会議にも交代で出席してもらっているが、面会の時等にもしっかり話を聞くように心がけている。</p>	<p>運営推進会議開催の際や利用者との面会時に出来るだけ時間を掛けて意見要望を聞き取り運営に活かすようにしてる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月の職員との定例会、その他随時聞く様努め、課題等について協議している。</p>	<p>定例会、ユニット会議は、職員からの意見で事業所理念の目標2ヶ条を作成するなど、施設運営に反映する機会を設けている。管理者は、職員からの意見をいつでも相談できる環境に気配り、職員からの意見課題に対して出来る限り迅速に対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>○毎年、一定期限に達した職員に代表者側から意見、考え方を聴取し、管理者、代表者の評価により、給与等見直しを実施している。</p> <p>○国の施策による改善等を実施している。</p> <p>○資格取得者に昇給基準を設け、実施している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>経験等に配慮し、研修参加、職場内研修等実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>実際には困難なことであるが、包括支援センター等を通じ、サービス向上に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前にアセスメントを行っているが、入居後も再度今後の長期的な要望等も含めて確認を行い、傾聴の姿勢を心がけ、本人の思いを受け止めるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に家族にホーム内の見学をして頂いたり、自宅に伺い生活状況の把握、本人の思いを聞き、安心して頂けるよう努めている。入居前の情報はスタッフ間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居の相談を受けた際に他の事業所のサービス内容も説明し、いろんな視野で判断できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事やティータイム、掃除や洗濯、畑や花壇の手入れ、レクリエーション等、生活を共に楽しむ姿勢を大切にする中で、笑い合ったり労わり合ったり感謝を伝え合ったりしながら、信頼し合える関係を築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常時、面会・外出・外泊の受け入れを行っており、お盆やお正月等は出来るだけ家族と交流を持っていただくよう支援している。また病院の受診にご家族の同行をお願いする等、連携を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方との面会の受け入れや、馴染みの場所に外出できるよう支援している。	近隣の地域の方の利用者も多いため知人、友人が毎月面会に来られる方もおられる。利用者の希望によりスーパーへの買物など出来る限り支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士でどうしても気が合わない場合は、スタッフが間に入ったり、一つのソファに腰かけて寛いで話せるよう配慮するなど個々に合わせて対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても、どこかでご家族と会った時は、近況を尋ねるなど交友関係は続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から本人が何を思い望まれているかをくみ取れる様に、コミュニケーションを大切にしている。会話困難な方はその方の立場に立ち、安心安楽に過ごせるよう検討している。	ユニットの職員を固定することで利用者との信頼関係を築き利用者の思いをより汲み取れるように工夫されている。利用者や日常会話の中で本人の思い意向を把握し、家族が面会の際には会話の機会を設け、家族の意向についても把握し利用者や家族の意向のすり合わせの調整を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族より聞き取りを行っている。ただ、単身で生活されてきた入居者が増えてきており、日々の会話の中から本人より昔の話を聞き出しているが、正確に把握することが難しくなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人記録に一日を通しての行動、言葉、バイタルチェック、食事や水分摂取量、排泄のリズムを記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>3ヵ月に一度モニタリングを行い、各担当ユニットの全スタッフ参加でサービス担当者会議を開いている。医師からは往診時に、ご家族からは来所時に意見を頂いている。</p>	<p>日常の記録を基に、3ヶ月1回モニタリングを行い、家族面会時に支援経過状況について説明している。全スタッフにてサービス担当者会議を開催し、医師の意見を聴きながら、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日勤、夜勤別に個人記録に記入し、スタッフ間で情報を共有している。記録を基にモニタリングを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>当ホーム以外のサービスは利用していない。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の夏祭り、秋祭り、文化祭に、スタッフが付き添い、参加している。文化祭へは習字や手芸等の作品を出品している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に御家族希望の上でかかりつけ医を定めている。かかりつけ医による月2回の往診を受けている。ホームのかかりつけ医は24時間対応して頂けるシステムになっている。</p>	<p>入居時にかかりつけ医について相談説明しているが、現在のところ家族の希望で全員事業所の提携医となっている。毎月2回の往診と24時間対応が可能ということで、利用者、家族にとっては安心である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の看護師と24時間連絡が出来る体制を取っている為、体調不良の方がいればすぐに相談し、必要であれば受診している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはスタッフが付き添い、情報提供を行っている。入院中は随時面会に行き、医師や看護師、ご家族より状態を聞き、退院時はホームで生活する上での注意点等の情報を頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時にご家族へ十分に説明し、同意を得ている。状態の変化があればその都度ご家族と相談しながら、医療機関の協力を得て出来る限りホームで支援している。</p>	<p>利用者入居時に、医療的処置が必要でない限り施設で過ごして頂ける終末期に向けた事項について利用者、家族に説明している。医療的な事項について嘱託医を交えて話し合いの場を持つなどチーム支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを作成し、全てのスタッフが緊急時慌てず行動出来る様にしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回防災訓練を実施し、スタッフ・利用者全員参加で行っている。訓練には近隣、地域の方にも声を掛け、参加して頂いている。</p>	<p>年2回、消防署指導の下火災避難訓練を利用者、職員、地域住民も参加し実施されている。実施ごとに反省と課題を各会議で検討頂き、アドバイスや意見を次回訓練に活かすようにされている。災害を想定して非常用品（水、食料、携帯ガスコンロ、行燈懐中電灯）などを備えられている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の人格を尊重し、プライバシーが保てる様に言葉かけに細心の注意を配っている。	利用者への声掛けは、利用者の誇りやプライバシーを損なうことのないよう注意しているが、日常生活の中で行き過ぎた声掛けと思われる場合は、リーダー及び管理者がその都度、注意喚起に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを取り、思いや希望に添える様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の気分や天候に応じて、一人一人のペースでどのように過ごすかを希望に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人に合った洋服選びになる様に希望を聞き、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	時々、希望される食事を提供している。食べやすいように刻んだり、ミキサー食にしている。	食事は、昼、夕食は外部業者より調達されているが、朝食と毎土曜日は、利用者の希望をお聞きし、メニューを検討し提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>体調に合わせ、栄養を損なわない食事の量と一日に必要な水分量が確保できるよう努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>本人の状況に応じた口腔ケアをしている。声掛けにて見守りし、必要に応じて介助している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人の排泄パターンを把握しつつ，個々の動作や行動で声掛けや誘導を支援している。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握し、オムツからリハビリパンツそして布パンツへの回復に実績を持っている。職員間チームワークで情報を共有し利用者の行動、仕草で予測して、トイレ誘導の声掛けを行うなど自立に向けた支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェックを行い、記録し、水分補給や運動を心がけ、トイレでは必要に応じ腹部マッサージ等を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>室温や湯温を調節しながら、ご本人のペースに合わせた入浴を支援している。</p>	<p>利用者のペースに応じて週に3回程度入浴をして頂いている。利用者の状態により2人介助で対応するなど絶えず安全配慮し入浴を楽しんで頂けるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>ご本人の希望やその時々状態により、随時休息をとって頂いている。夜間安眠の支援として、日中適度な活動を促したり、失禁等に対する不快感への配慮、寝具や室温等の調節を行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々の常用の薬についての把握に努めており、往診や受診の内容や処方薬の変更については記録や申し送りでも共有し、症状の変化に気を付けている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人一人に合わせて、得意なことや好きなことをして頂いている。(洗濯物を畳む、掃除をする、花を飾る、簡単な料理の下ごしらえをする等や、歌会、散歩、行事への参加等)</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご家族と帰宅や食事、お墓参り、旅行などされる方もおられる。一人一人の状態に合わせてスタッフが付き添い、屋外へ散歩に出かけており、時に車を使用することもある。</p>	<p>個々の利用者状態に合わせてご希望の場所への外出支援、日常の散歩など行っている。家族、利用者の希望に沿って家族との食事や墓参り、旅行などの支援を行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金の管理は難しい人が多いが、ご家族と連携をとり、所持したいという思いには応えている。希望される物や必要な物は個々にご家族よりお預かりしているお金で購入し、金銭出納帳で管理している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は、かかってきた場合は取り次いでおり、ご本人が希望される場合は、ご家族の了承を得た上でかけてもらっている。手紙は喜ばれるが、返信は難しい。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	光や風を必要に応じて取り入れ、加湿器やエアコンの利用、調節もしている。共用しやすいように、家具や物品の配置を変えたり、季節ごとに皆で壁飾りを作成して飾ったり、庭の花を飾ったりしている。	共用空間は天窓があり、柔らかな日差しが入るようになってきている。壁面には利用者、職員の共同作品が展示され車椅子の方に配慮されたバリアフリー、広い通路、ソファ等が配置されている。リビングからウッドデッキに出られる開放的な雰囲気になっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室、ダイニング、リビング、座敷、ウッドデッキと、出来るだけ車椅子の方でも通りやすくして、思い思いに行き来して頂いている。また、いずれも座れる場所を設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族にもご協力いただき、慣れ親しんだ物や好みの物を使ったり飾ったりできるよう支援している。また、ホームでの作品の飾りつけも行っている。	居室内は、火気及び食べ物以外は持ち込み自由で馴染みの調度品などを持ち込まれてる。施設内で作られた作品や家族の写真など壁面に飾られ、落ち着いた空間を配慮されている。居室の掃除が出来る方はモップ掛けなど職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動きやすさ、分かりやすさ、使いやすさを考慮し、場所の表記や物の配置、記名など工夫している。自主的に行動されている時には見守り、アドバイス等の支援をしている。		

V アウトカム項目(さくら)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(ひまわり)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 GHあけぼのあゆみホーム

作成日 平成27年1月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員全員で理念を唱和し、徹底を図っているが、具体的に実践に繋げる様にしたい。	職員一人ひとりの取り組み目標を定めて定期的に検討を行い、理念が実践に繋がるようにしていく。	毎月の会議で個々の取り組みを話し合い、進捗度合いの検討をしていく。	一年
2	2	日常的に地域とのつながりがあるようにしていきたい。	日常的に施設を知ってもらえるような取り組みを増やしていく。	町内行事への職員や入居者の参加、また施設へ来て頂けるような企画を検討する。	達成まで随時
3	4				
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。